

## 環境問題に関する長崎市民の意識調査

糸山 景大\* 小野 隆弘\*\* 後藤 ヨシ子\*\*\*

(平成11年3月15日受理)

### The Consciousness Investigation of the Citizens of Nagasaki on the Environmental Issues

Kagehiro ITOYAMA\*, Takahiro ONO\*\*, Yoshiko GOTO\*\*\*

(Received March. 15, 1999)

#### 1. はじめに

筆者らはこれまで、それぞれの立場でゴミ・廃棄物処理問題にかかわってきた。そうした者にとって、長崎市民が、環境問題、なかんずくゴミ・廃棄物処理問題に対してどのような意識を持っているのかと言うことは、ゴミ・廃棄物処理問題を少しでも改善していこうとする者にとって、大変興味のある事であると共に、現状を把握し、課題を共有していくためにも、何とか知りたい事柄であった。

著者の一人糸山が、長崎市が進める町づくり事業「長崎伝習所」\* の中でリサイクル文化研究塾の活動を開始したのは1991年4月であった。この塾活動の一つとして1992年からリサイクルイベント「ばってんリサイクル」を開催し、ゴミ・廃棄物処理問題の重要性、リサイクル活動の重要性等を市長に広くうったえてきた。その「ばってんリサイクル'97」においてリサイクル文化研究塾では、環境問題に関するアンケートを実施した。長崎市民がどのような環境問題に興味を抱き、ゴミ・廃棄物処理問題にどのように対処しようとしているかを、少しでも知ることができれば、今後の市行政に寄与できる部分も小さくないと考えたからである。

勿論、「ばってんリサイクル'97」と言うイベントの中で実施したことを考えれば、アンケートに協力いただいた人たちの環境問題、ゴミ・廃棄物処理問題に対する意識は、一般市民よりは高いことが想像できる。また、十分な被験者数を得られていない（被験者数：142名）ことにも注意しなければならない。

しかしながら、そうした諸点を考慮しても、このようなアンケートが意味をもつのは、市民の意識の調査が、必ずしも十分になされていないことに起因していると思われる。今回の調査結果がどのように意味あるものになるかは、むしろそこに現れている市民の意識をどのように解釈し、長崎市のゴミ・廃棄物処理行政にどのように活かして行くかにかかっ

---

\*長崎大学教育学部技術教育講座

\*\*長崎大学環境科学部

\*\*\*長崎大学教育学部家政教育講座

ていると言えるのではなかろうか。

まだアンケートの全部の集計が済んでいないため、結果の一部しか報告できないことをお断りしておきたい。

## 2. 調査方法とアンケート用紙の例

アンケート調査用紙は次の通りである。

### ゴミ・廃棄物処理問題、リサイクル活動についてのアンケート

#### 1. あなたの地区は：

[            ] 町, [ 男, 女 ], [    才 ]

#### 2. 申し訳ありませんが、家族構成を教えてください。

大人 [        名 ],        小・中学生 [        名 ]

学生 [        名 ],        幼児 [        名 ]

#### 3. あなたは、どのような環境問題に関心がありますか。下の環境問題の中から、3つ選んで、○で囲んでください。

◎地球温暖化

◎オゾン層破壊

◎酸性雨

◎河川・湖沼の汚染

◎森林（熱帯雨林）の減少

◎大気汚染

◎砂漠化

◎ゴミ・廃棄物処理問題

◎騒音・振動

◎悪臭

◎その他（具体的に

)

#### [ ゴミ・廃棄物処理問題について ]

#### 4. お宅で多く出るゴミはどんなものですか。（下から選んで、1番多いものに○を、2番目に多いものに△を付けてください。）

[    ] 生ゴミ

[    ] ペットボトル

[    ] トレー（魚などをのせる）

[    ] 空きビン

[    ] 卵のパック

[    ] 雑誌

[    ] 空き缶

[    ] 紙おむつ

[    ] 紙屑

[    ] 新聞紙

[    ] その他（

)

#### 5. あなたは、下に示すような活動をしたことがありますか。

◎トレーをストア等へ持って行く

◎生ゴミを土に戻す

◎牛乳パックの回収

◎廃品の集団回収

以上のアンケート調査から、3、4、5及び9、10について分析を試みた。

### 3. 調査結果

図1は、どのような環境問題に関心があるかの調査結果である。最も関心を示しているのが「ゴミ・廃棄物処理問題」であり、70%強の値となっている。ゴミ・廃棄物処理問題が、市民の身近な環境問題として注目を浴びていることが良く読み取れるであろう。次いで、「オゾン層破壊」「地球温暖化」「大気汚染」「森林の減少」と続いている。オゾン層破壊に伴う皮膚癌や緑内障の発生がマスコミを通じて報道されており、身体に直接かわる問題に関心が集まったものと解釈できよう。調査時期が12月であれば、地球温暖化京都会議があった時期と一致しており、順序が入れ替わった可能性は高い。大気汚染の問題に35%強の回答者が関心を寄せていることは注目に値する。森林の減少にも関心が集まっているのは、紙のリサイクルに大きな関心が払われていることを考えると、納得の行く結果である。「河川・湖沼の汚染」について25%弱の回答があったが、大村湾や諫早湾締め切り等の閉鎖性水域を持つ長崎県ならではの結果のように思える。

質問4の家庭から出るゴミの多い物を回答してもらった結果を、図2に示す。

図2に示すように、家庭から出るゴミのうち、最も多いのは「生ゴミ」であり(62%強)、次いで「紙屑」「トレー」「新聞紙」「雑誌」「ペットボトル」「空き缶」「空きビン」の順となっている。

家庭から出るゴミとして、生ゴミが多く出ることはうなずける結果であると共に、生ゴミを減らす工夫が必要であることを示している。これまで筆者らは、筆者の一人糸山が塾長を勤める長崎市伝習所\*リサイクル文化研究塾の中で、塾の活動としてEMボカシによる生ゴミの堆肥化を推し進めてきたが、このことの正しさを、計らずも示す結果となっている。

調査結果から、「紙屑」「新聞紙」「雑誌」を含めると60%弱の回答となるが、家庭から出るゴミの中に占める紙類の多さに、改めて驚かされる。市・行政当局としても、紙類の

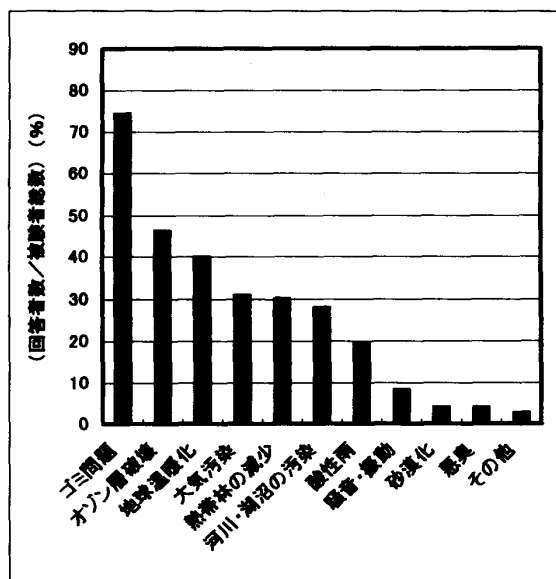


図1 どのような環境問題に関心がありますか

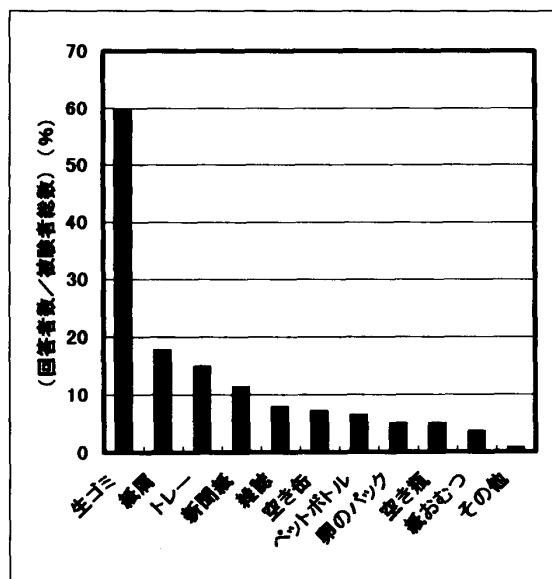


図2 家庭から出るゴミで多いものはどんなものですか

回収を集団回収を主とした回収から、資源ゴミとして位置づけた回収へのあり方へ転換する必要があるのではないだろうか。それと共に再生紙の利用促進を計るような施策が必要であろう。

トレーやペットボトルも相当に排出されており、「容器包装リサイクル法」に沿った回収を進める必要があることを物語っている。

図3は、質問5に対する回答の結果である。図からわかるように、廃乾電池の処置に関しては、相当に高い割合（約75%）で回収ボックスへ持って行っていることが分かる。次いで、「ガレージセールへの参加」「牛乳パックの回収」「トレーの回収」「廃品の集団回収」の順となっている。通常多くの人が考えるリサイクル活動に、三人に一人以上は参加していることがうかがえる。ただし、回答者が「ばってんリサイクル」と言うイベントに来ている人たちであることを考慮すると、実際の生活の中で、リサイクル活動等に参加していると意識している市民は、20%～30%といった程度であろうか。

一方、「ゴミ処理場の見学」「ゴミ問題の講演会等への参加」は少なく、実際に長崎市の廃棄物の最終処分場（埋立地）が何処にあるかを知らない市民は多い。講演会等も会場いっぱい参加者といった風景はまれである。

長崎市における一日一人当たりのゴミ排出量がどのくらいかを推定してもらった。図4はその回答のヒストグラムである。

長崎市民の一日一人当たりのゴミ排出量は約1.1kgであり\*\*、約27%の人が正解となっている。この分布の平均値は1.21kgとなり、市民は一般論として言えば、ゴミ排出量をほぼ知っていると言うことができる。ただ、平均ゴミ排出量より大目の回答が、約4割あり、かなりの家庭の実感としては、もっと多い排出量であることをうかがわせている。

図5は、被験者にゴミ処理費用がどの程度であるかを聞いた、その回答のヒストグラム

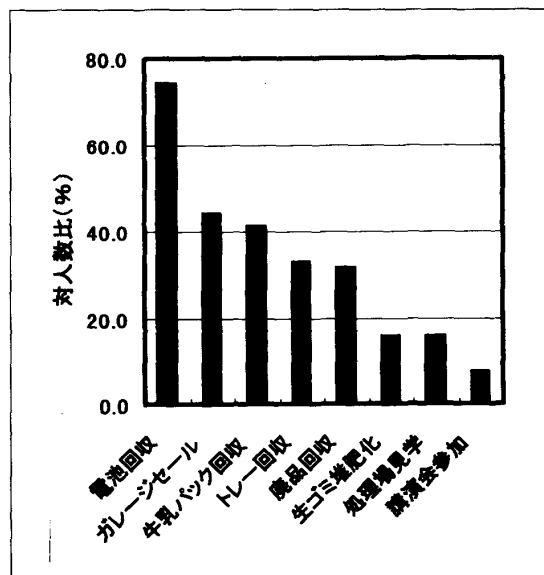


図3 ゴミ問題、リサイクル活動でどんなことをしたことがありますか

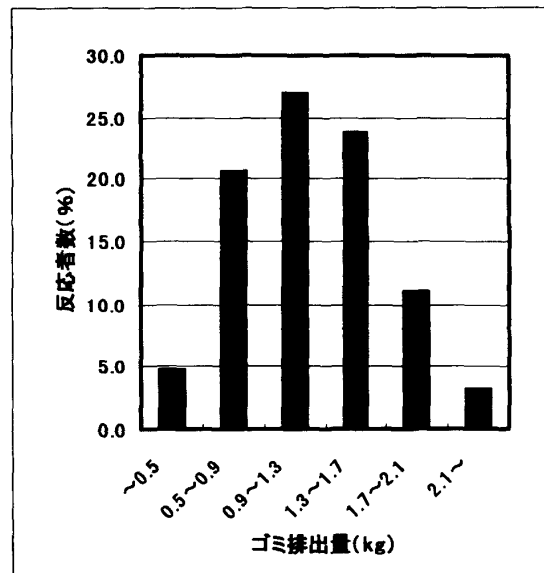


図4 長崎市民は一日一人当たり平均どれくらいのゴミを出していると思いますか

である。正解は「50億円以上」であるが、3名(約5%)に過ぎない。最も多いのが「1億円～10億円」の36.5%(有効回答者の43.4%)であり、次いで「5000万円～1億円」の23.8%(同28.3%)となっている。市民がいかにゴミ処理費用を安く見積もっているかがわかる。と共に、市・行政当局が、この点に関して殆どPRらしいPRをしていないかが明らかである。

こうしたゴミ処理費用は、当然のことながら、私たちの税金で賄われており、この費用を減らすことは、他の施設や行政サービス等を充実させることにつながるのである。「ゴミを減らせば『ビックNスタジアム』がもう一つ作れるよ!」なんて言うキャッチコピーが、長崎市の広報に載ってもおかしくないと思うのだが。

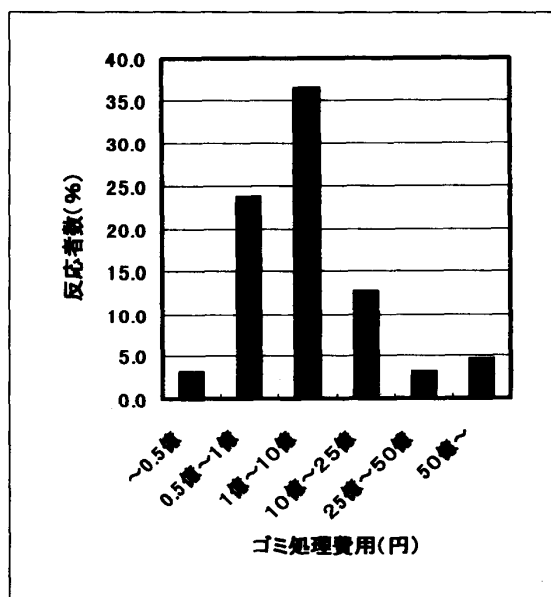


図5 長崎市の一年間のゴミ処理費用はどのくらいだと思いますか

#### 4. むすびにかえて

私たちの町長崎を、より住みやすい希望のもてる町に作り変えていくために、長崎市・行政当局が果たさなければならないことは多い。ゴミ・廃棄物処理問題について言えば、市の基本政策を示し、行政が行う部分、市民が行う部分、メーカーや流通業界が行う部分、廃棄物処理業者が行う部分をキチンと市民に提示する必要がある。

今回のアンケートによる調査結果を見ると、長崎市民の環境問題に対する意識は、低いものではないと考えて良いのではなかろうか。要は子どもを含め市民の意識をどのように行動に結び付けていくかであり、リサイクル文化研究塾の活動も、このような活動のすそ野を少しでも広げていくことに貢献できれば幸いである。

\* 市民と市職員が協働する人材育成の場と街づくりの拠点として長崎市役所が設立。

1986年異業種交流を目指す「ハイテク塾長崎伝習所」として設立された歴史をもち、90年「長崎伝習所基金」が設置され現在に至っている。住民の自由な発想を育て人材ネットワークを形成する「塾事業」や「都市問題研究事業」、「イベント事業」を行っている。([イミダス] 1994年版より抜粋)

\*\* 「平成10年度清掃事業概要」(長崎市環境部編)によると、長崎市のゴミ・廃棄物処理量は年間約13.9万トンであり、一日一人当たり約1.6kgとなる。このゴミ・廃棄物のうち、家庭から出るゴミの量は約11.4万トンで、平成元年以来ほぼ横ばい状態である。しかし事業系一般廃棄物の増加が顕著で、ゴミの量を増加させる一因となっている。